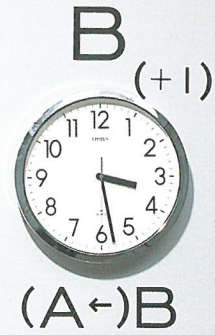
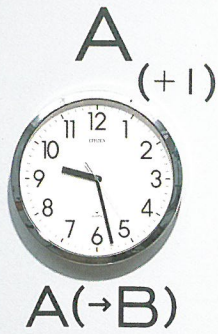


C'n

vol. 12

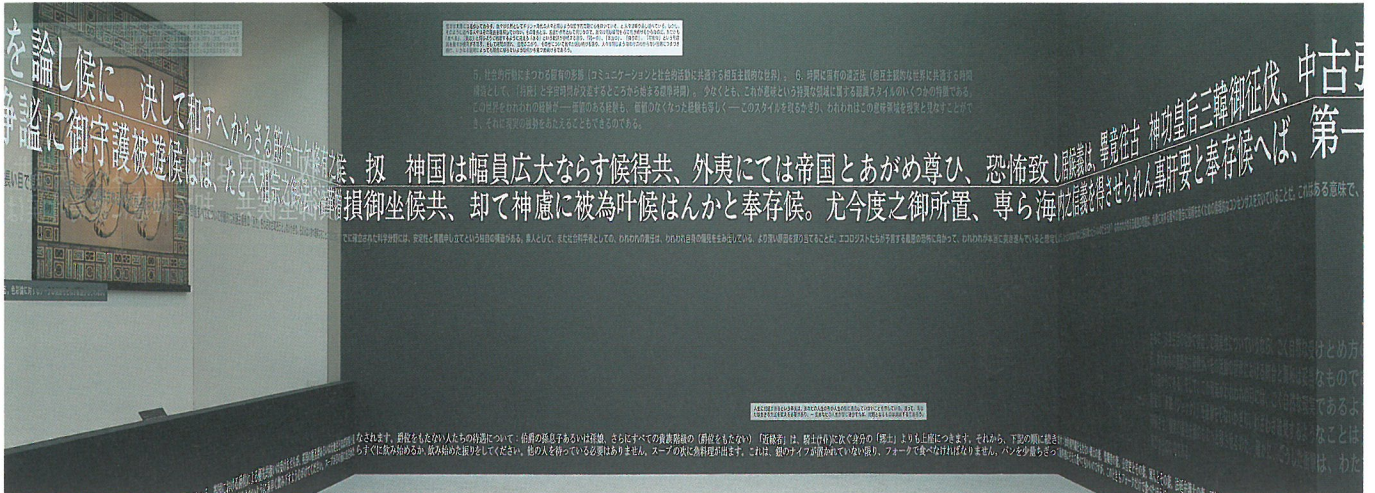
SCENE
NEWS

CHIBA CITY MUSEUM OF ART



ジョゼフ・コース 1965—1999
訪問者と外国人、孤立の時代

現代美術による 2000 年紀の幕開け



《訪問者と外国人、孤立の時代》1999年 部分

新年明けましておめでとうございます。

本年平成12年は、西暦でちょうど2000年。記念的な画期となる年です。さらには20世紀最後の年ということもあって、日本ばかりでなく世界中で、様々なお祝いの催し、あるいは惜別のイベントが予定されているようです。祝祭への対応に気ぜわしい一年となることでしょう。

当館では、暮にオープンしてから二月の初めまで、現代の世界的な芸術家として著名な、ジョセフ・コサース氏の大規模な特別展を開催中です。コサース氏は、コンセプチュアル・アート、すなわち概念芸術の旗手として、1960年代の末から活躍を続けてこられた方ですが、今回はこれまでの輝かしい足跡を代表作を通して回顧するかたわら、江戸時代日本の「鎖国」をテーマとした新作「訪問者と外国人、孤立の時代」が発表されています。

「訪問者と外国人」のテーマは、ここ数年コサース氏の心をとらえているもので、ドイツのフランクフルトで開かれた「ゲートのイタリア旅行」やトルコのイスタンブールでの「トルコでのロッシェニ」などに続き、千葉では「孤立の時代」をサブ・テーマとして、新たな挑戦を試みたものです。

会場に足を運んでいただければ、今回のインスタレーションがいかにか作者にとって意欲的なものであるかが、よく実感できるだろうと思います。アメリカ人のコサース氏にとって、これまでは当然のことながらアルファベットの文字列の構成による表現が本領となってきたわけですが、今回は漢字仮名混じりの日本語表記が造形表現の素材として全面的に採用されています。とくに展示室の壁面を一周する二列の文字列は、嘉永六年（1853）に幕府に提出された二通の建白書から選ばれたもので、上段は水戸の徳川斉昭による鎖国論、下段は井伊直弼の開国論のそれぞれ一節が、強い意味の対比を示しつつ見る者の目に訴えかけてきます。そしてその文字列が貼られたガラスケースの中には、鎖国中の江戸時代絵画と開国後の日本近代絵画とが千葉市美術館

の所蔵品から選択されて、大小、高低、多様な主題の変化などを極めて精緻に注意深く計量し、構成して、展示してあるのです。

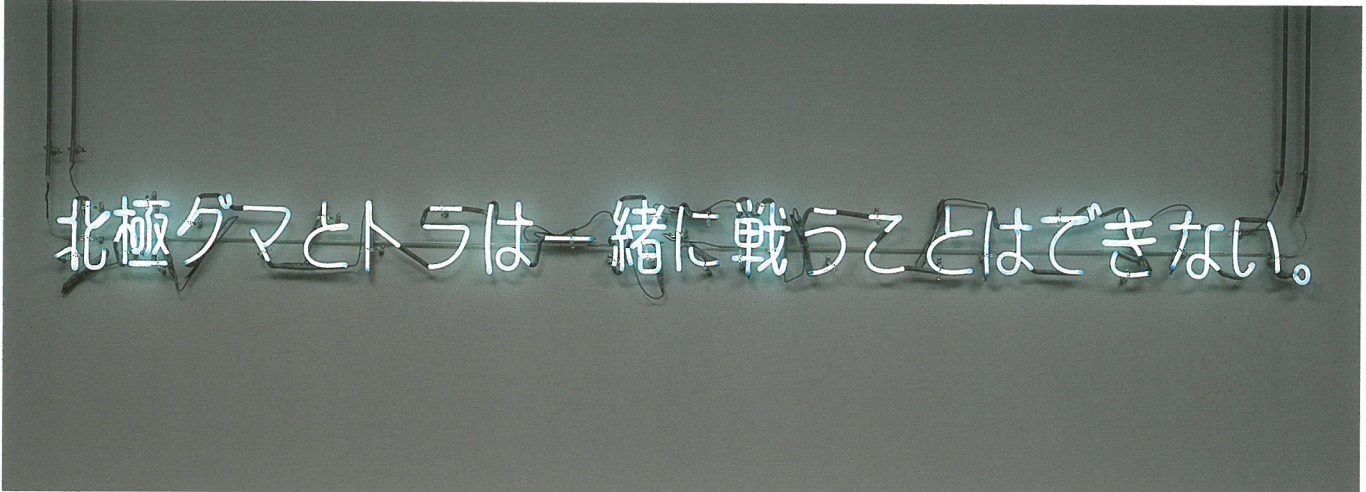
そこには、作者のコサース氏の「訪問者」、「外国人」としての落ち着きの悪い関係性と、それと同時にそれ故に刺戟的な親しみとが表明されているのでしょうか。そして現代の私たち日本人に対して、かつてあった揺ぎない共感的な文化からの遠い距離感、そしてそれ故の何とはない、しかし切実な懐かしみを、実感させようとしてくれているのでしょうか。

現代のアクチュアルなアートは、古典的な絵画や彫刻のように作者の意図を理解しようと努めても、無益なことが多いようです。けれども、同じ時代に生きている人の止むに止まれぬ表現ですから、意外に気楽で楽しいところがあることも事実です。作者が私たち観客に突きつけるメッセージにそのかされて、ふだん自分の中にだきかかえてもやもやとした思いを明確に意識化させるきっかけとなるかも知れません。「大人の遊園地」を訪れるような、軽い気持ちで、美術館をのぞきにきていただけませんか。今ここには、間違いなく世界の美術界の最先端の作家の、しかも日本の千葉市の依頼に応じて作者自身が現場で指揮して作った、最新作が発表されつつあるのですから。

当館は今年の秋にやっと五周年を迎えるいまだ若い美術館ですが、これからも初心を忘れずに、過去を振り返るとともに、現代と真向から切り結ぶ芸術の「今」もまた、提供し続けていきたいと願っています。変わらぬご理解とご支援をいただけますよう、本年もよろしくお願ひ申し上げます。

千葉市美術館 館長 小林 忠

ジョゼフ・コースス入門

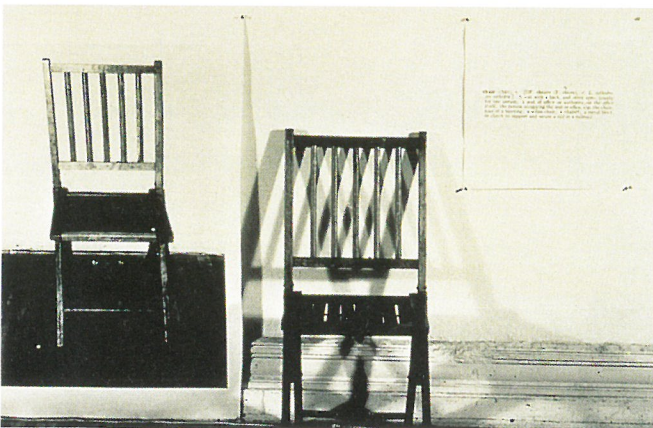


〈北極グマとトラは一緒に戦うことはできない。〉1994年 作家蔵

ジョゼフ・コーススの作品をはじめて観た人は、それらが何を意味しているのか、ほとんど理解できないかもしれません。それは彼の作品が、おなじみの印象派やバルビゾン派の絵画とは全く異なった種類の作品であるだけでなく、カンディンスキー、モンドリアンらの抽象絵画や、ウォーホール、ホックニーらのポップ・アートのような現代美術とも異なった種類の芸術だからです。この文章では、コーススの作品の「何が」、今までの芸術と異なっているかについて説明します。

1. ジョゼフ・コーススとは

ジョゼフ・コーススは、1945年にアメリカのオハイオ州で生まれました。現代美術のなかでも、60年代中頃に始まるコンセプチュアル・アート（概念芸術）と呼ばれる動向を代表する芸術家として知られています。コンセプチュアル・アートの興隆とともに、20代前半という若い時期に、世界的に有名になりました。そして現在に至るまで、アメリカや西ヨーロッパは言うまでもなく、東ヨーロッパ、中南米、トルコなどの美術館や画廊で、数多くの展覧会を開いてきました。今回、千葉市美術館で行われる日本最初の本格的な個展のために来日し、非常に大規模な新作《訪問者と外国人、孤立の時代》を制作しました。



「1つと3つの椅子」1965年 作家蔵

2. コンセプチュアル・アートとは

コンセプチュアル・アートとは、完成した作品自体よりも、作品を成り立たせる思考を重視する芸術です。どんな素材を用いるか、どのような色やデザインを採用するかはあまり重視されません。そして、そのような姿勢を反映して、それまで芸術作品には決して用いられることのなかった日常的で非芸術的な素材・手法が使われました。

コーススも、辞書の項目を写した写真、ネオンサインに使うネオン管、タイプライターで文字を打った情報カード、新聞広告や町中の掲示板といった、およそ芸術作品とは思えない手法を用いて作品を作りました。作品自体には価値が無く、作品を成り立たせる無形の思考（概念）に価値があることを示すために、あえてこのような非芸術的な素材や手法を用いたのです。

普通、有名な芸術家の作品は非常に高額な値段がつきますが、コーススの作品の値段も決して安くありません。しかし、彼の作品を買う人は、作品自体にお金を払うのではなく、作品の証明書にお金を払うのです。作品を購入した人は、展示しない作品を捨ててしまったり、古くなった作品を新しく作りなおしたりすることもできます。証明書の指示に従って制作されていること、同じ作品を同時に二つ以上展示しないことなどのルールを守れば、作品を廃棄することも再制作することも許されるのです。多くの場合、作品は写真やネオン管などであるため、コースス自身でなくとも、容易に再制作することができます。つまり、物としての



〈自己定義－5色〉1965年 千葉市美術館蔵

作品自体には価値が無く、証明書に記載されている無形の概念のほうに価値があるのです。作品は、この概念を人々の前に分かりやすく示すための、一時的、便宜的な手段にすぎません。

3. なぜ言葉を使うのか

コーススの最大の特徴は、その作品全てが言葉を用いていることです。美術作品にもかかわらず、なぜ言葉を用いるのでしょうか。

コーススが登場した60年代中頃、今世紀新たに生み出された抽象芸術は、極限状態まで進化したかのように見えました。単色の絵具だけを一面に塗った、あたかも何も描かれていないような(モノクローム)絵画や、一見するとただの立方体の箱にしか見えない(ミニマル)彫刻が、数多く制作されていたのです。美術批評も、抽象絵画のかたちや色彩の効果を分析することが主流でした。

このような状況のなか、若きコーススは、美術学校で絵画の勉強をしていました。しかし当時の最新の動向を知る彼にとって、絵画や彫刻の分野で、もはや残り残されたことはほとんどないように思われました。彼は最初、かたちを生み出すことなく物を抽象的に表現するために言葉を使い始めました。しかし間もなく、芸術の目的は、芸術とは何かを探究することにあると考え始めました。つまり、芸術作品によって芸術を定義しようとしたのです。

この時代、科学技術の発展は人々の生活を大きく変えました。世界中の人々が、居間のテレビで月面を歩く人間の姿を見たり、エジプトのピラミッドやニューヨークの高層ビルを見に行くことができるようになりました。さらに、テレビや雑誌を通じて、きらびやかな大衆文化が、一般の人々の間に急速に浸透してい

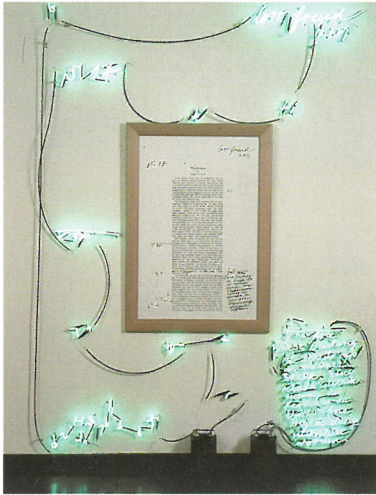
きました。もはや(高級)芸術は、視覚的な斬新さ、新奇さでは、これらに太刀打ちすることは困難です。(高級)芸術は、視覚的なものを越えて、自らの存在意義を問い直す必要に迫られたのです。このとき、視覚的なものを越えるという点でも、自らの存在を定義するという点でも、作品に言葉を用いることが有効な手段であると考えられたのです。

例えば、1965年の《自己定義－5色》は、ネオン管によって「5つの色の5つの語」という言葉を(英語で)示しただけの作品です。この作品は、タイトルが示すとおり、まさに自分自身の姿と役割を記述し、定義しているだけです。これは当時の芸術作品(コーススの作品のみならず、彼に先立つ抽象芸術の多く)が、自分自身だけを参照し、芸術のあるべき姿を定義していることを、文字どおり示しているのです。すなわち、芸術作品を用いて、芸術作品のあり方を示しているのです。

4. 既にある意味を組み合わせる新しい意味を生み出す

コーススの初期の作品は、前述した《自己定義－5色》に代表されるように、芸術を定義する以上の意味内容を持ちませんでした。しかし言葉と芸術の関係を探究するにつれて、コーススは言葉のもつ別の可能性に気づき始めます。70年代後半以降は、芸術という狭い領域に閉じこもり芸術を定義するだけではなく、より広い社会的、文化的、歴史的、政治的文脈を意識し、それらの文脈に関連する言葉を作品内で用いることを試みます。

そして80年代以降、コーススは、彼が敬愛する精神分析学者のフロイトや言語哲学者のウィトゲンシュタインの著作をはじめ、様々な文章を引用するようになります。それらの引用は、フロイトやウィトゲンシュタインの著作が持つ本来の意味だけでなく、コーススが引用することによって、新たに加えられた



《訂正されたフェティシズム (緑)》1985年 作家蔵

意味をあわせ持つのです。精神分析学や言語哲学の文脈を離れ、現代美術の文脈に組み込まれることで、同じ文章が、異なった意味を生み出すのです。このことは、この展覧会のために制作された《訪問者と外国人、孤立の時代》のような、複数の引用を組み合わせた大規模な作品において、より明確になります。

この作品は、たくさんの既製の文章（と江戸時代以降の日本絵画）から構成されています。多くの人は、これがなぜコーススの作品なのか、他人の作品の切れ端を集めただけではないかと思うことでしょう。この疑問に対して、コースス自身は次のように答えています。

私たちが文章を作るとき、私たちは既に存在している言葉を使います。それぞれの言葉は他人が考え出したもので、私たちが作り出したものではありませんが、できあがった文章は、私たち自身が作った独創的な作品として認められます。《訪問者と外国人、孤立の時代》のようなコーススの作品にも、同じことが言えます。この作品の中に用いられている文章は、コーススが創り出したものではありませんが、本来の場所から切り離され、彼の手で一つの作品として再構成されることによって、一つの独創的な作品と

して生まれ変わるのです。これらの著作のもつ本来の意味は、もちろん消え失せるわけではありませんが、引用され、他の文章や芸術作品と組み合わせることで、新しい意味を生み出すのです。

むろんこの新しい意味が生み出されるためには、作品を観てくれる人々が必要です。作品を観た人は、個々の文章を読み、芸術作品を鑑賞し、それらが何を意味するのかを考えた結果、一つの新しい意味を生み出すのです。作品を見た人こそが意味の生成者となり、作品を完成させるのです。

5. コーススの作品は美しい？

これまでの説明で、ジョゼフ・コーススの作品について多少なりとも理解していただけただけでしょうか。完全に理解することができなくても、あなたがこれまで親しんできた伝統的な絵画や彫刻をはじめとする美術作品とは、根本的に異なる性格の芸術であることだけは、分かっていただけのことと思います。

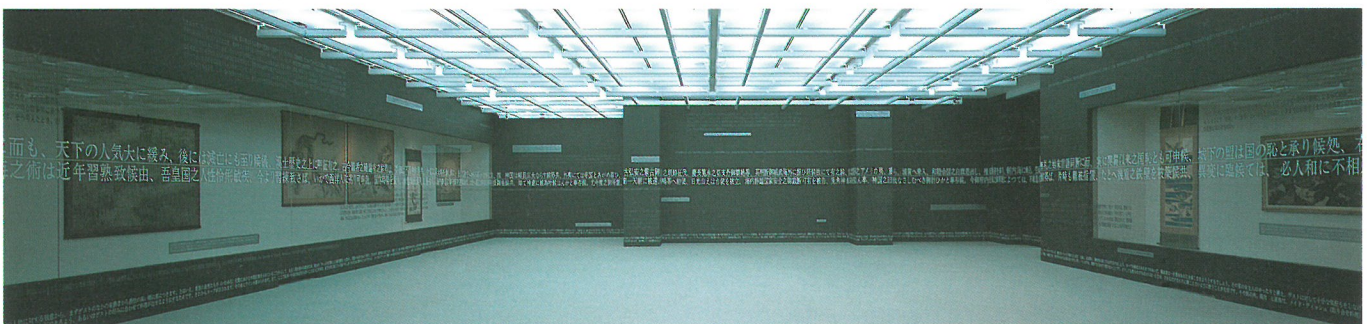
たとえコーススの作品の意味が分からなくとも、伝統的な美の基準とは異なる、その現代的な美しさに共感する人は、少なからず存在するはずで。特に展示室全体の壁を作品として用いた《訪問者と外国人、孤立の時代》の部屋に足を踏み入れたとき、多くの人がこの作品を美しいと感じるでしょう。

しかし皮肉なことに、コースス自身はこの美しさを否定しています。完全に否定しないまでも、彼の作品において、美しさは二義的な、とるにたらない役割しか果たしていないと考えているのです。しかし一方でコーススは、作品のデザインや仕上げの細部にまで、非常に細やかに神経を使います。このことは、彼の作品の最大の矛盾として考えざるを得ません。

私個人としては、コーススの作品に美しさを感じてもかまわないと思います。本来難解な彼の作品に近づく一つの有効な手段になると考えるからです。結局、現時点で矛盾となっているこの美しさをめぐる問題が矛盾であり続けるかは、今後コンセプチュアル・アートがどのように評価されるか次第なのです。

本館学芸員 水沼啓和

《訪問者と外国人、孤立の時代》1999年 部分



「観念の彼岸」まで



〈冬日和の美術〉(1999.1.16 - 2.14) 展示風景

私はこの数年館内でコレクションの展示（常設展、平常展）を手掛けることが多かった。そのため他館でもよく常設展に目を向ける。ところがそれらがどうも単調であり面白くない。美術館好きの方でもそういう方が多いのではないだろうか。

その原因のひとつにはコレクション自体の貧困にあるだろう。言い古されたことだが、特に公的な美術館とは多くの場合、まず建物と組織を指し、その運営や収蔵作品を主体には考えてこられなかった。企画は持込まれ、コレクションは収集方針に掲げられたアイテムを消化した後の肉付けがされず表層的なものになりがちなのである。そして更に肝心な原因は、それでも美術館の主、本尊である収蔵作品の見せ方である。例えば神仏に詣でるときのことを考えてみればよい。目的の神仏を拝めさえすればそれで満足というものだろうか。そうではないだろう。神仏は必ず周囲の自然、森や町、参道、建築、広い意味での聖域というアプローチを伴い、それらのステップを経なければ本当の満足は得られない。私たちは実は中心をめぐるトータルな体験を求めているわけだ。そのことは演劇や音楽を思い出せば一目瞭然だ。芸術にふれるということは寸断した行為ではなく、一連のストーリーを持った行為になりがちなのだ。だから美術でも、作品と相対するための条件作りが重要だ。現に天候や心身の状態などの微妙な条件が感動の質に影響を与えることを考えれば、美術館が整える諸条件が作品鑑賞に与える影響は計り知れない。ところが鑑賞者の視点に欠けているコレクション展示が意外と多く、それが刺激に欠けたつまらない常設展示を作り上げている。私はことある毎に主張してきたことだが、作品を整理分類する管理者の視点から離れた展示思想を模索するべき時がきている。

千葉市美術館は江戸時代を中心とした近世美術と現代美術をコレクションの特質としている。だからその特徴を引きだすべく、時間軸を縦横に横切る、古典も現代も隣合う所蔵作品展を

この数年繰広げてきた。これまで古典と現代芸術、愛好家の間でも専門家の間でも完全に異分野のものとして認識されがちなものたちを取って隣り合せた所蔵作品展「流転する美」「光 あれば…」「冬日和の美術」等々を開催し、スリルにみちた千葉市美術館の展示スタイルとして定着して来たように思う。

そしてそのような模索を私たちが続ける間には、常設展示に工夫を凝らそうという美術館が徐々に増えている。近隣でも一番の老舗である千葉県立美術館では昨夏こどものための展覧会と称して「光の演出 影の効果」と題したコレクション展を開催した。舟越保武のモニュメンタルな婦人像と山本正道のブロンズを空間中心に据え、全体としての統一感に気を使った展示であった。また先般川村記念美術館で開催された「あなただけの劇場」は9作家の27作品を緩やかに仕切られたブースに慎重に配置し、個々のスペースで作品と対峙するための基本条件を整えることに専心していた。二館の展示とも、そのコンセプトと良い方法論と良い「まねしやがったな」という思いがなかったわけではない。しかし悪い気分はしない。来館者の皆様のためになる展示哲学と技術なら切磋琢磨しあいたいものだ。

さて今冬の企画展は「ジョゼフ・コッス 1965 - 1999」。コッスはコンセプチュアル・アートの祖型を提唱した芸術家だが、その65年以降の回顧と大規模な新作「訪問者と外国人、孤立の時代」が展示された。もとより東西のコンセプチュアルな芸術は当館の比較的得手とする分野である。S・ルウィット、D・ビュラン、N・トロニ、河原温、日本作家では山崎博、村上友晴、野村仁など観念的傾向のしかるべき作品を所蔵している。近世以前の美術では画題（テーマ）自体思念的な作品に事欠かない。その中から10作家の作品を取上げ「観念の彼岸」と題する小展示をもった。もちろん、単に観念的傾向の羅列ではなく、目に見えぬペーストを潜ませてある。来館してご覧になった方は気づかれることと思う。

本館学芸員 半田滋男

展覧会スケジュール

【休館日】月曜日（祝日の場合はその翌日）年末年始 展示替期間中

【開館時間】午前10時～午後6時（入場は午後5時30分まで）毎週金曜日は午後8時まで（入場は午後7時30分まで）

【ハローダイヤル】043-227-8600

※展覧会の日程・名称は変更される場合があります。なお、企画展の入場料は展覧会ごとに異なります。詳しくは美術館までお問い合わせください。



ジョセフ・コースス 〈カセクス #39〉 1981年 作家蔵

◆ジョセフ・コースス 1965 - 1999

「訪問者と外国人、孤立の時代」

2月6日⑩まで

コーススはコンセプチュアル・アート（概念芸術）を代表するアメリカの芸術家。1965年以降の代表作と新作による、国内初の大規模な個展。

◆千葉市美術館所蔵作品展 「観念の彼岸」

2月13日⑩まで

「ジョセフ・コースス 1965 - 1999」展にあわせ、当所蔵の近世および現代の美術作品によって、時代を超えて美術作品にこめられている「ものの考えかた」について探ります。

◆第31回千葉市民美術展覧会

2月19日① - 3月10日⑤

◆長澤蘆雪展 一没後200年記念

4月4日⑧ - 5月7日⑩

前期：4月4日⑧ - 4月16日⑩ 後期：4月19日⑧ - 5月7日⑩

江戸時代中ごろの京都では、新旧の画派が入り乱れて多くの画家が活躍し、百花繚乱というべき賑わいを見せていました。そんな中、機知に富んだ描写でひととき大輪の花を咲かせたのが長澤蘆雪（宝暦4・1754～寛政11・1799）です。本展は、伊藤若冲・曾我蕭白と並んで奇想の画家の一人に数えられる蘆雪の生涯にわたる画業を振り返り、紹介するものです。

蘆雪は、師・円山応挙ゆずりの優れた描写技術を基礎に、形式にとらわれない想像力あふれる画風の作品を残しました。自ら赴いて筆をとった南紀（現在の和歌山県南部）には襖絵を中心に今も多くの作品が伝わっています。中国風の美女を描いた美人画、子犬の愛らしさを引き出した動物画、夢幻的な山水風景画、大胆な構成で大画面の特性を十分に生かした襖絵など、見所満載です。



本店は、南紀に残る代表的大作、新出の作品の他、在米のプライス・コレクションからの里帰り作品を含む約100点により構成されています。全国では、60年ぶり、関東地方においては初めての網羅的な回顧展となります。

長澤蘆雪・曾道怡 〈花鳥蟲獸図巻〉（部分）
寛政7年（1795）千葉市美術館蔵

昨年のはじめ、当館の仕事で山形県酒田市にある土門拳記念館に出かけました。写真家が撮影した日本の彫刻を調査することが目的で、3日間の滞在中、およそ数千点を確認する作業でした。

いい作品がたくさんあったなかで、土門が戦時中に撮影した奈良・唐招提寺の伽藍の写真は忘れられないもののひとつです。季節はたぶん、春から夏にかけて。白黒の写真であるとはいえ、空はどこまでも青く、成層圏までとどいているようでした。その深みが、地上の伽藍と見事な対比を生み、見ているこちらの肺までがその青に染められる気がしたのです。

そのおり、
一ははあ、植木茂が見たのはこの空だったのか。
と、というようなことを思い浮かべました。

北海道に生まれた植木茂（1913 - 84）は、はじめ洋画を志し、同郷の三岸好太郎に師事します。しかし、1934年に師が亡くなり、芸術のよりどころを失った若い画家に危機がおとずれます。この状況を救ったものは、京都・奈良の旅でした。

三岸が歿した翌年、村井正誠の紹介によって知り合った長谷川三郎に誘われて古寺巡礼の

旅に出た植木は、唐招提寺の大日如来が両手で結ぶ印の力強さに魅せられ、彫刻への転向を決心します。当時、東京に住んでいた植木は旅から帰ってまもなく彫刻ができるアトリエを求めていますから奈良での体験がいかに強かったか想像ができます。以後、彫刻は全くの独学。しかも、戦前ではこころみられることが少なかった抽象彫刻をそのはじめから目指していたといえます（これは、多分に旅行をともした長谷川の言動に影響を受けたのでしょうか）。

本作品は戦後の作品で、すでに植木が彫刻家としてひろく知られるようになったころのものでした。

じつは、この作品を当館の刊行物などでみなさんにご紹介するのはこれで数度目になります。抽象的な表現の最初のとりかかりを説明するためには最適なため、つつい取り上げてしまおうのですが、今回はかれが唐招提寺の仏像から受け取ったものは何であったのか、みなさんもこの作品を前にあれこれ考えてみて下さい。

いにしへの仏教彫刻と現代の抽象彫刻を同じレベルで考えることは決して無謀なことではありません。それは、植木茂というひとりの表現者の道程そのものが証明していることなのですから。

本館学芸員 薬科英也



植木 茂『子ども』1963年頃 92.7×25.5×23.5cm 木

美術館のご利用あんない

NTT ハローダイヤル 043-227-8600

1-2階 SAYA-DO HALL
さや堂ホール

昭和初期に建設された、市内に残る数少ない貴重な建物（ネオ・ルネサンス様式）を新しい建物で包み込み、復元・保存したものです。

1階 MUSEUM SHOP
ミュージアム・ショップ

展覧会カタログ・美術図書、ミュージアムグッズがお求めになれます。

7階 AV CORNER
映像コーナー

ハイビジョンによる作品鑑賞、所蔵作品の検索ができます。また、千葉市美術館制作の番組をご覧頂けます。

10階 ART LIBRARY
図書室

室内の美術図書はご自由にご覧になれます。また、美術書の検索に関するご相談をうけたまわります。

[開室時間] 10:00~18:00

11階 RESTAURANT
レストラン

ランチタイム・喫茶にご利用下さい。

[営業時間] 11:00~21:00

- JR 総武線千葉駅
 - 東口より徒歩約15分
 - 京成バス大学病院行（のりば⑦）「大和橋」下車徒歩約2分
 - 京成バス矢作台市営住宅・川戸行（のりば⑦）あるいは小湊バス八幡宿駅行（のりば④）「広小路」下車徒歩約1分
 - 千葉都市モノレール県庁前行（「葭川公園」下車徒歩約5分）
 - 無料巡回シャトルバス「チーバス」（のりば⑨）「中央区役所・美術館前」下車（11:05~18:35の毎時05分と35分に出発・水曜運休）
- 京成千葉中央駅東口より徒歩約10分

